

与論島の活性化について
鹿児島大学機械工学科一年
学籍番号 2513210156
片山 諒太郎

今回私は島の仕組みという講義にて与論島というところに行ってきた。今回の課題はどのようにすれば与論島の訪問客がさらに増えるのかということについてだ。まずはそのために与論島とはどんなところか説明しよう。与論島とは奄美群島のひとつで、鹿児島最南端のしまである。島の周囲はリーフで囲まれた美しいサンゴのしまである。一島一町で、人口は約6000人で、面積は20.8キロ平方メートルである。島で唯一製造されている黒糖焼酎「友泉」は、ほとんどが島で消費され、客人をもてなすときなどには「与論献奉」と呼ばれる島流の飲み方で友泉を飲む。主なイベントとしては与論マラソンというものがあり、毎年三月初旬に開催される。これはマラソンをしようと思気込んでいる他県の人たちがたくさん来るそうだ。観光地もたくさんあり、百合ヶ浜・大金久海岸・サンセットビーチ・民俗村・サザンクロスセンター・与論城跡などたくさんの観光場所がある。食べ物もドラゴンフルーツなど与論島ならではのたべものがたくさんある。先ほど述べたように与論島には与論島ならではの観光場所などがたくさんあるので観光する場所としては最適であると私は感じる。しかし、私には問題点もあると思う。それは移動手段である。移動手段は飛行機と船の二種類がある。飛行機の場合は二時間くらいでつくらしいですが一日に数便しか動かないのであまり人のいどうができません。逆に船ならば飛行機に比べればたくさんの方がのれますが、時間がかかりすぎます。鹿児島本土から与論島までであると片道20時間かかります。これはかかりすぎだと感じます。実際に船で行ってみて本当に長いと思ったし船の中なので携帯もあまりつながらないし、時間の有効活用ができませんでした。自分は今もしまた与論島に行く機会があったとしても船を使っては行きたくないと思った。かといって飛行機を使うとなると船とは比べ物にならないくらい移動に時間がかかってしまう。時は金なりというがまさにこれのことである。この問題を解決すれば訪問客が伸びると自分は考える。しかし今現在はそういう理想的な手段は存在しない。今日の状態ではどのようにすればよいのだろうか？私が考えるには莫大な時間またはお金を使って旅行をするのなら与論島だけでなく、その周りにもセッパで訪れるという方法である。与論島は先にも述べたとおり奄美群島のひとつである。奄美群島のなかにはほかに奄美大島・喜界島・加計呂麻島・江仁屋離島・与路島・徳之島・沖永良部島などさまざまなしまがある。さらに、沖縄も近いので与論島だけによるのではなくセッパでいろんなところに行けば多少値段は上がるが単品でそれぞれにいくよりは安く収まるであろう。セッパにすればお客様もいきやすくなるはずである。いきやすくなる理由としては、いろんなところに行って少し安めなのでおとくかんがある、さまざまな観光場所があるなどがかんがえられる。いきやすくなることによって訪れる客も増えるので島が活性化すると

考えられる。そして訪れる訪問客が増えて客がまた新たな客に奄美群島はいいところだったよというレビューをまわしてくれることによってさらに訪問客も増えると考えられる。逆にセットにすることによるデメリットはないかを考えてみる。先にも述べたように単品よりかは値段がたかいのでセットでかうのをためらうお客さんがいるかもしれない。ただある島ひとつだけに行きたいだけであってべつにほかのところにはいかななくてもよいと考える人がいるかもしれない。このような理由が考えられるが私個人的に考えるにお客はセットのほうをとると思うのでさほど問題がないと感じられる。ここまで客観的に意見を述べてきたが実際に与論島に行ってきたことは与論は面積などが狭いぶんみんな仲が良く、与論の人はあたたかいなと感じました。島を活性化させていくには観光スポットを紹介するのは当たり前ですが、その現地の人たちがどんな人なのかを紹介することによってもそこを訪れたいと思う客がいると考えられます。これからは島の活性化のためにも人も紹介すればいいと思う。ほかに島を活性化させるためにはしっかりと自己PRをするべきだと思う。自分は今回の集中講義に行くまで与論島というところがあることをしりませんでした。たまたま集中講義をとったおかげでしたのです。私以外の人の多くも与論島の存在を知らない人がいるかもしれません。ましてや九州じゃない人たちはほとんど知らないのではないのでしょうか？まずは鹿児島しないからPRをしていき、九州、そして本州と幅を広げてしっかりとしたPRをすればいいと思う。もし私が考える通り九州外の人たちはあまり与論島の存在を知らなかったら、PRをして存在を知っただけで少し興味がわき行ってみたいというきもちになるかもしれない。私も与論島のパンフレットを渡されたときにはじめて与論島の景色がどんなところかを知って「海がきれいだな。」「島独特な食べ物があるな」と感じ、本当に行くのが楽しみになった。今回の島の活性化においては、何事に対しても自己PRは大切なものだとおもう。そして、島を活性化できるかどうかはあとは島の人たちがどれだけ努力して一生懸命自己PRできるかにかかっていると私は考える。